

# JAMトピックス

## 技能伝承について意見交換 フィンランド専門職・管理職労組が来訪

フィンランドのYTN（フィンランド専門職・管理職労連）に所属する労使10名が2017年5月11日にJAM本部を訪問し、技能伝承などについて意見交換した。

訪問を受けたYTNはエンジニア・建築家・経済学者・法律家などの専門職を中心とした産業別労働組合組織である。



宮本会長が中小ものづくりの現状を説明冒頭、宮本礼一会長の挨拶では日本のものづくり産業における中小企業の置かれている状況を中心に説明した。YTNからは中小企業の賃金がなぜ低いのか、値下げ要

請により利益を圧迫するのはなぜかなど、日本特有の問題について質問が集中した。フィンランドにおいても技能伝承をどのようにするかが悩みであるとともに若者が製造業などを希望しない傾向があり、いかに魅力的な産業であるかを伝えるかに苦慮しているとのことであった。また、フィンランドの労働者側からは技能者は47歳程度で能力的に頭打ちになるので、それ以上の高齢の労働者を会社が追い出そうとしているとの発言があったのに対して、経営者側は高年齢の労働者が技能を自ら伸ばそうと努力をしていないので、仕事が限られると反論する場面があった。フィンランドも少子高齢化(1)する状況でいかに経済成長を保つかが課題であると日本同様の課題を抱えていることが明らかになった。(1)合計特殊出生率:フィンランド1.75 日本1.42(2014年)



エンジニアを中心としたフィンランドの労使がJAMを来訪